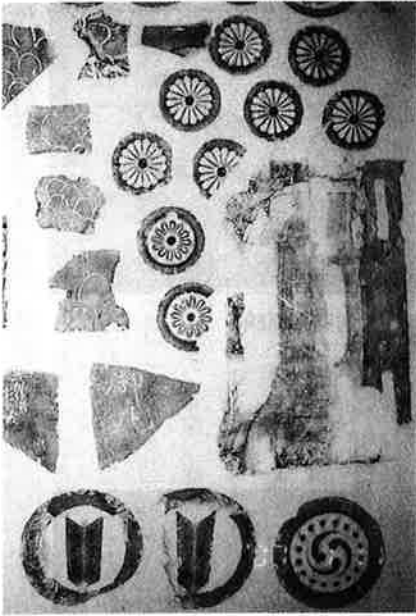
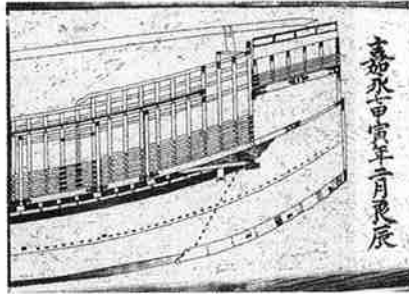
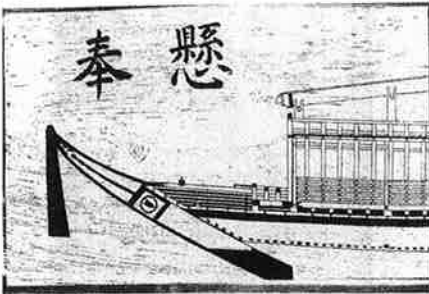


佐伯城の古瓦

会員並河正明氏が城山山頂周辺で収集していた古瓦を拓本に採りました。矢筈紋の鬼瓦には瓦師大坂七兵衛の刻印があります。また○ノ御丸と刻まれた平瓦、矢筈紋の巴瓦、棟飾りに使われた菊丸瓦、鯨と思われる鱗紋のある瓦片などが含まれています。初代高政創建時のものか、六代高慶再建時のものか不明ですが、大坂七兵衛の刻印瓦はこれまでもよく見つかっています。

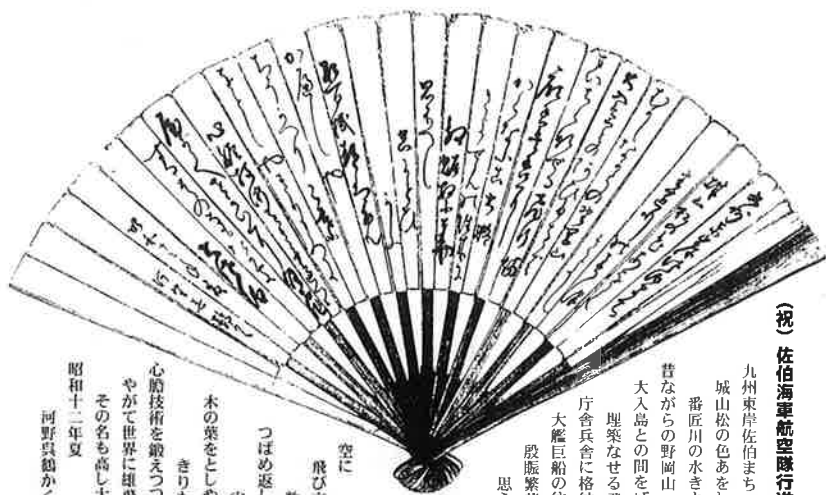
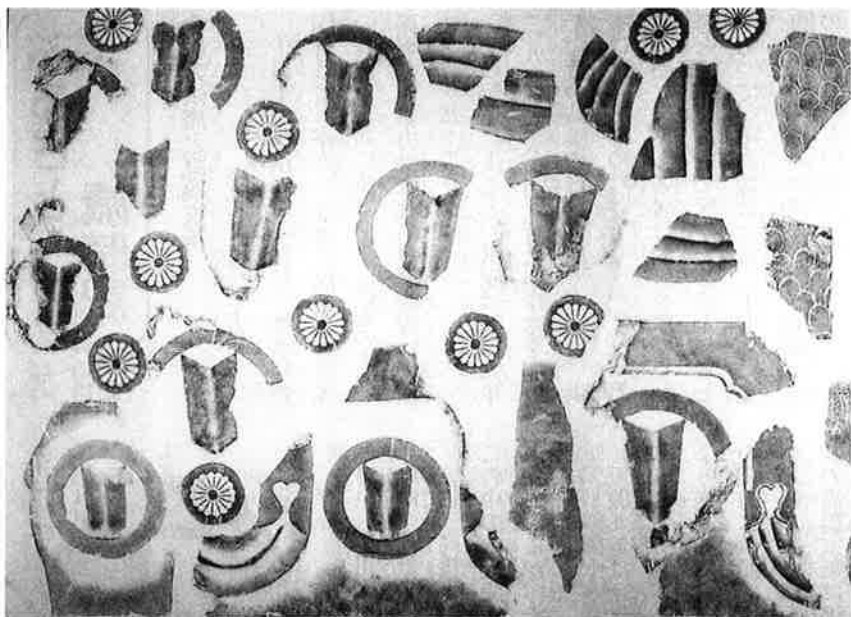


住吉神社奉納絵馬「佐伯藩御座船」



参勤交代時の船団編成

福寿丸94（藩主用）吉川丸26（副船）桐生丸50（家老用）太平丸47（馬匹用）
 秋月丸15（輜重用）速著9（使者用）飛松8（輕舸）※数値は乗組員（船頭・
 水主・漕ぎ手） 参考文献：増村隆也著「佐伯郷土史」・河野松男著「回船」



(祝) 佐伯海軍航空隊行進曲

九州東岸佐伯まち

城山松の色あをし

番匠川の水きよし

昔ながらの野岡山

大入島との間をば

埋築なせる飛行場

庁舎兵舎に格納庫

大艦巨船の往来に

股腕繁華

思ふべし

空に

飛び交う

数百機

つぼめ返しや

宙返り

木の葉をとしや

きりもみに

心臓技術を鍛えつつ

やがて世界に雄飛する

その名も高し大佐伯

昭和十二年夏

河野真鶴かく